

二日間の東京大学・企業・大学訪問での活動は一瞬でしたが、自分の進路を考えていくうえで本当に意義のある時間を過ごせたと思います。

一日目の最初にディレクトフォースがあり、はじめに義手づくりをなさっている近藤玄大様から講義をして頂きました。従来の義手は、車が一台買ってしまう程高額で、義手をつけていることを隠すという傾向にあったそうです。そこで、近藤さんは、手がないことを個性にできるようなカッコいいデザイン、3Dプリンターを使うことで可能となった安くて手軽といった、画期的な義手を開発したのです。さらに、その宣伝は今、少しずつ認知されてきているクラウドファンディングを用いたり、設計データを無料で公開したりという斬新な手法だったのです。ものづくりの発想力だけでなく、経営的側面からも大変ためになる講義であると感じました。

この講義の後、笹川平和財団の三人の方々からお話を伺いました。自分の目標の場所で働くにあたり、計画的に行動をとることや、代表となってスピーチをする際の話す態度や、アイデンティティーをもつことなど、私たちが今後社会に出たときに役立つような情報を教えて頂きました。また、三人とも共通しておっしゃっていたのが、英語を使えるようになったほうが良いということでした。グローバル化が進む現在、海外の人と協力して活動することが増えています。海外のほとんどの人が英語を使えるので、これから先英語を使えないことは厳しいそうです。さらに、英語だけでなく中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語の一つは話せることが望ましいそうで、つまり、どこでも自分の意見や主張が通るように努力することが重要なのだそうです。この日は、日本や世界でご活躍されているの方々から、貴重なお話を聞くことができ、自分の将来がすぐそこまで迫ってきたようで、深く心に残りました。

続いて、JAXA の相模原キャンパスの施設を訪問しました。入口付近のロケットや打ち上げられてきた数々の人工衛星の模型がまず目に入りました。テレビやインターネットでしか見たことがなかったので、一度は JAXA に行ってみたいと憧れていたが、まさかこんなにも早く行くことができるとは思いませんでした。今回私たちに施設を案内してくださったのは広報担当の方で、様々なお話を伺うことができました。日本での宇宙開発は今から六十年ほど前から始まり、糸川英夫さんらの研究によって、日本初のロケット、二十三センチメートルサイズのペンシルロケットが生み出されたそうです。もともと宇宙関連の研究をしているところは、厳密にいうと ISAS、NAL、NASDA の三つの機関であり、十数年前にそれらを統合して JAXA が設立されたそうです。JAXA では今までにいくつもの衛星を宇宙に送り出してきました。なかでも「はやぶさ」の話は印象深かったです。

はやぶさの使命は、小惑星イトカワから地球にサンプルを持ち帰ることです。しかし、

イトカワへと送り出すことは楽なことではなく、宇宙プロジェクトの開発には十年もかかります。しかし、やっとはやぶさを開発しても地球に帰還するところで、機体のほとんどは大気圏で燃え尽きてしまうのです。

本当ははやぶさを壊さずに残しておきたいという作成者側の気持ちもあったそうですが、ミッションのためにははやぶさは悲しい最期を遂げることになります。けれどもこれははやぶさに限ったことではなく、他の人工衛星においてもいえることであり、中には打ち上げ段階で失敗してしまうものもあるそうです。そのため、はやぶさの帰還はすごく名誉なことなのです。

宇宙ロケットのように研究者や技術者などが長い年月をかけても、結果をあまり出せずに研究人生が終わることがあるといいます。成功の光に埋もれて失敗の側面というものは、なかなか見えこないところなのですが、はやぶさの話を通じて、研究者や技術者という職業の苦労や努力の成果、全てが世に出るわけではないという、もどかしい側面が見えた気がしました。この話を聞いた後、観測室を窓越しではあったのですが、見せてもらえました。ここでは観測の大半を人の手でっており、コンピューターは古いタイプの製品を使用していました。観察室の見学中、広報の方に、今後、人工知能や新型の機械を導入するのかと質問をしたところ、現段階ではそれはないという答えでした。機械に人工衛星の管理を任せても、人のように臨機応変に対応できるようプログラムすることは困難ですが、人の手で古いタイプの機械を扱うのであれば、不具合が起きた時にどう対処すればよいのか見当が付きやすいからだそうです。

館内を巡ったあとは、広報の方が質問時間をもうけてくださり、現在の JAXA の活動や海外の NASA、ESA などとの連携・競争についてといった内容に対して、私たちが興味をもってくれるように丁寧に答えてくださいました。この訪問で、JAXA が行っている宇宙開発の規模の大きさに驚かせられたとともに、一つのプロジェクトに分野の境なく大勢で取り組み、宇宙の真相を突き止めていくことの素晴らしさがより身に染みて感じられました。

この日の最後、仙台二高の OB・OG との座談会が行われました。高校時代のことや大学の研究についてなどの話を聞くことができました。OB や OG の方々の話を聞いていると、独自の勉強法を確立している人がほとんどであり、自分の力で東京大学に合格しているので、とても意外でした。そこで当時の勉強法について聞いてみると、基本的に学校から渡された教材を使って予習・復習を徹底していたそうで、とにかく自分が一番合っていると感じた勉強スタイルを貫き続けることが大切だと言われました。また、ただ目標の大学に入るだけになってはいけないとおっしゃっていました。今の日本では学歴を重視しがちな風潮が強まっており、なかには大学に入ればそれで終わりという人もいます。

ですが、それでは大学からその先は厳しくなっていきます。だからこそ、自分が何をしたいのか目標を持って学びに行くという気持ちを持つことが大切なことだそうです。私は将来やってみたくことがおぼろげにしかありません。大学は理系の学部を志望しています

が、その進路が現時点での将来の夢にあっているのかともう少し考えていく必要があると思いました。座談会は本当にあつという間でありましたが、広く考えを取り入れることができ、良い刺激を受けたと感じています。私も OB・OG の方々のような話を、いつか後輩にできるくらいになりたいです。

二日目は、東京大学の見学ツアーがありました。初めて見るキャンパスは厳かな雰囲気を出していました。東大を案内してくださった FairWind の方々は、面白い話をまじえて大学の様子や生活などについて教えてくださいましたので、東大は本当にいい学び場なのだと思います。またワークショップでは、東大に入るまでの高校時代や課外活動、大学の特色についての講義を受けて、そのうえで自分の進路を見つめなおすということを行いました。東大はどこか堅いイメージがあり、一部の天才で猛勉強している人だけが集まっていると思っていましたが、ここで話を聞いたときに、東大に行くことは相当難しいことになりは変わりはないけれども、努力と熱意次第では、ここに行く道もあり得るのだという思いが芽生えました。この研修に行こうと思ったのは、ただの興味本位だったのですが、私が考えていた以上のものが得られ、とても満足のいく研修になったと思います。

研修でのすべてに、また貴重な機会を頂けたことに感謝したいです。ここでの経験が、今まで私の中で迷っていたことや、学習への見方を大きく変えるポイントになりました。東京で見て、感じたことを記憶に留め、これからの自分の人生を悔いのないようにしていきたいです。